



伸びざかり 育ちざかりに良いしつけ

広げたゾ 友情の輪ツ!! 若人の船に参加して

端古賀 中川 博之

若人の船は、今度で、七回目になります。今回の訪問国はシンガポールとタイ(バンコク)でした。期間は、三月一日から十三日(十二泊十三日)まででその内の三日間が寄港地活動、残り十日間は新さくら丸号(商船三井客船)による航海という日程でした。船内での生活は、六時三十分起床、午前中研修、午後レクリエーション及びクラブ活動、夜に部活動、十時消灯というものでした。

そして、新さくら丸号で航海を始めて八日間。いよいよ次の日はシンガポールという夜は、嬉しくて寝れなかったことが思い出されます。シンガポールの第一印象は、町並がとても奇麗だったこと。これは、日本のように個人の家がゴミゴミと立ち並んでいるのではなく、アパートが整然と並んでいて個人の家がほとんどなく、緑が非常に濃くて多かつた事からくる印象のようです。又、もう一つ意外だった事は想像していたよりも暑くなくかつたことです。赤道に近いのでと暑いと覚悟していったんですが、ちょうどこちらの初夏ぐらいで、ガイドさんの話によると一年をとおして気温の変化はあまりないということなので、とても過ごしやすいようです。

この点では、タイの方がシンガポールよりもだんぜん暑く、ただすわっているだけでも汗が出てきて、日中で三十二度から三十五度くらいまであります。しかし、これでもタイでは、一

年中でもっとも過しやすい時期だそうで、これを聞いた時は、日本のよさがつくづくわわかりました。また、タイでは、見学して回る時、警察官に先導してもらったのですが、その警察官がカンピールを飲みながらバイクを運転していたので、ガイドさんにその事を探ねたら、タイでは飲酒運転をしてもいいし、道路のスピード制限もまったくないし、しかも車優先だという話でした。ただし交通事故の死亡率は日本の約三倍ぐらいだそうで、いいことばかりでもないんだなあと感じました。

ところで、この若人の船に参加して、もっともよかった事はシンガポールとタイの青年達と交歓会などで、かたことの英語ではありますが、話をする事ができたことです。両国の青年達に共通していたのは、とても熱心に日本の経済、文化、生活教育などを知らうとして、質問してくる姿勢でした。これに対して英語をよく話せないため十分な回答ができなかった事が悔まれてなりませんし、その時ほど、もっと英語を勉強していればと痛感しました。

ことを知る必要があると感じました。最後に、この若人の船で得た体験を太良町のために生かして行きたいし、今後も多くの方々が参加されることを念願しております。



鉄道妨害防止運動 5/27~6/15

踏切は一旦止まって右左

国鉄では全国一斉に、五月二十七日から六月十五日まで、踏切事故や、幼少年による線路への置き等、鉄道妨害の絶滅を期して、「鉄道妨害防止運動」を実施することになりました。昭和五十八年度の長崎鉄道公安室管内での鉄道妨害は、七十三件で、線路への立入り二十三件、踏切事故二十件、幼少年による線路への置き十八件、その他十二件が発生し、死者五人、負傷者六人を出し、悲惨な結果を招

いております。町民のみならずこの運動の趣旨を御理解いただき、次の事項について御協力をお願いいたします。

- ドライバーのみなさんへ 一踏切では、必ず一時停止して安全を確認してから通行して下さい。
二踏切の前方が混雑している時は、あきが出来るまで踏切の手前で待って下さい。
三踏切上でのギャーチェンジは、エンジンの原因となりますのでやめましょう。
四万一、踏切を故障した時は、先ず列車を止める手配をして下さい。
●鉄道沿線のみなさんへ 一線路内の通行は絶対にしないして下さい。
二線路内や、線路近くで遊ばせないようにして下さい。もし遊んでいる子供を見かけたなら注意して下さい。

時とともに変わる 母親の立場



家庭内暴力や非行が、依然として増えている昨今、「母親としてどうあるべきでしょうか?」とよく聞かれますが、正直いって、答えに窮してしまっています。今年二十二歳になる長女(会社員)をトップに、長男(二十歳、大学一年)、次女(十五歳、中学三年)、三女(十歳、小学四年)、次男(九歳、小学三年)と、五人の子供がいます。この二十年間、子育てに明け暮れてきたわけですが、いまだにどきどき立往生し、母親として無力であることを痛感させられるからです。わたしの経験からいいますと、長男や長女を育てた時代は、いわゆる「教育ママ」が主流をなしていたころでした。ところがいまは、「教育ママ」もすっかり影をひそめ、新たな時代を迎えているように思います。

スキンシップを大切に



人との触れ合いを重視して、子供は人間としてのやさしさを、勇盾、醜さなどを肌で覚えていくのではないのでしょうか。ときには、けんかをしても、そこから心の痛みを知ることもあるでしょう。
●何事も子供と 眞剣にとりくむ
●人間性を豊かにする 人との触れ合い
わが家は五人兄弟ですから、たいへんにぎやかで、人間同士の触れ合いという点で多様性があり、ずいぶんプラスの面があったと思います。子供にとつて、何が大切か、といいますが、もちろん知育面も育めることではないでしょうか。それには、小さいころから、いろいろな人と触れ合わせるのが大切です。やさしい人、きつい人、いじわるな人—いろいろな

人道を通じて平和へ

最近、世界各地で種々の紛争が起り、また自然災害が発生し、このため家財を失い、家族が離散し、飢えや病いに苦しむ難民や被災者はおびただしい数にのぼっています。さらに、発展途上国では栄養不良や伝染病

に悩む子どもたちや乳幼児も少なくありません。これらの人々に対する救護活動は、赤十字の果たすべき重要な人道的使命であり、日本赤十字社は国際赤十字の一員として世界一三〇ヶ国

短歌

そのひとは、子供たちと一緒にお風呂へ入ること。もちろん、いまは大きくなった長男や長女は辞退しますが、小学三年生ころまでは、これを実行しました。もうひとつは、一緒に寝ながら絵本を読むことです。そして、ときには、お話の作りこをして、動物を主人公にしたり、その日のできごとを題材にしたりにして、子供たちとかわりばんこに、物語を作っていくのです。ですから、わが家だけの童話が数えきれないほどできました。これは、子供たちの創造力も養うことができ、とても効果があったと自負しています。

また、ときには、子供たちと眞剣にすもうをやるのもいいのではないのでしょうか。とにかく、母親がたごえ十分でも二十分でも、一緒に遊んで子供と遊ぶことです。遊ぶという事は、心のゆとりです。めんどうくさがつていては、心の通じ合うことはできません。何事も子供と眞剣に取り組んでスキンシップを大切に—そこから、母子の信頼の輪が広がっていくのだと思います。

その救護、援助活動に取り組んでいきます。一方、国内においても、災害救護をはじめ、医療事業、看護婦養成事業、三つの実技講習(救護法、水上安全法、家庭看護法)、赤十字奉仕団員並びに青少年赤十字メンバーの育成、貴重な献血による血液事業の推進等、赤十字にふさわしい広汎多岐にわたる諸事業を展開し、逐年その成果をあげています。これらの赤十字事業を今後も続けていくために、みなさんの善意を赤十字にお寄せ下さい。赤十字のボランティアや町内会の方々のみならず、お宅を訪問しますので、是非とも暖かいご協力をお願いします。

- 蛙みちを通りて行けば穂すすきの風になびきて春おとづれぬ 北島 百合子
○水仙の早咲き初めてほのかなる香りただよふせまき庭面に 森田 キチ
○裏山につたなく啼ける鶯の今朝はのどかに調ひてをり 鶴崎 静代
○庭石のくぼみに木瓜の花びらをおよがす朝の風やわらかし 馬場 志茂
○灯を消せば硝子戸越しにしんと夜のしじまに風雪の舞 藤田 幸子
○吾が留守の厨守りし少女なれ土産の化粧水枕辺におく 辻本 なつ
○今朝打ちし畑に雀ら群がりて春の日に土浴びるたり 岩永 礼子
○口には言へぬ想ひぞあらむ帰化すれば多良山麓に花を愛しむ 川岡 つた
○新世帯持ちし日のことふと夫の今朝言ひ出でぬ四十年振り 片淵 スミエ
○帰省の娘しじみ思ふ縁先に卵生みたる鶏が鳴き出づ 塚口 弥八
○会ひ度いと父がしきりに名を呼ぶと電話かかって夜明けを急ぎぬ 浜崎 喜美子
次回予告 (どなたでも参加出来ます)
○期日 五月二十日午後一時三十分~三時三十分
○詠早 未発表作品二首、ハガキに書いて左記へ
○宛先 太良町油津 川岡五六
○〆切 五月十六日

育てよう どの子も持っている良い個性